



「CS教師の資質③ 愛と忍耐をもって」

支援教師 奈良 献児

教会学校の教師の資質の学びも第三回目となりました。今回は、教会学校で奉仕する私たちにとっては、頭の痛いことについて、少し考えてみたいと思います。

1. 子どもを愛するとは

教会学校にやってくる子どもたちの中には、大人の言うことを素直に聞き分けてくれる者だけではなく、時には大人を翻弄させてしまうほど「うるさい子」、「すぐ暴力を始める子」なども決して少なくないことは皆さんも経験されていることでしょう。

ですから、正直なところ、彼らに付き合うことに精神的な困難を感じてしまうことがあるかもしれません。しかし、そうした時、彼らが救われて神の子となる機会を私たちが奪ってはなりません。そうならないためにも教師の側における彼らに対する忍耐が必要なのです。彼らも大切な魂なのです。

でも、問題を持つ子どもたちを受け入れ、ただ忍耐しなければならないということではありません。忍耐は必要ですが、その前に彼らの行動を精査してよく理解しましょう。やみくもに、彼らを受け入れ、彼らの問題行動のすべても受け入れて忍耐をもって接するということが愛なのではありません。

2. 理解しようとする愛

子どもたちが「騒がしい」、「言うことを聞かない」、「すぐに手を挙げる」という事は、教会学校だけの問題ではなく、多くの場合、教育現場では非常に問題になっていることである事は皆さんもご存知でしょう。彼らの表に現れている「問題行動」には、それなりに原因があり、裏があるのだと覚えることはとても大切です。

もちろん、彼らは自分から進んで自分の問題行動の原因を話すなどという事はありません。だから、彼らがどうしてその様に振舞うのかを知ろうと努めてあげることに教師の子どもたちへの愛が問われるところなのです。「これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」（コロサイ書3章14節）とありますから。

誰もが親切的な教会学校では、家庭に原因があるゆえに、その不満のはけ口として教

会学校で行動してしまうのかもしれませんが。受けられるべき愛情が足りなくて直ぐに自分に注目をさせたいばかりに騒いでいるのかもしれませんが。

特に、著しく落ち着きが無かったり、何度注意しても迷惑行為を抑えることのできない子ども（大声を上げる、勝手な時に質問を繰り返す、勝手に立ち歩く等）がいる時には、ある種の障害が隠されている場合があるので、家の人と面談をして良く聞くことも大切になるでしょう。その様な子どもがいる場合、むやみに叱っても意味が無いばかりか、子どもを傷つけてしまうことの方が多いということを知っておきましょう。

3. 一人で抱えない

ところで、教会学校で担任制をとっているところも少なくないでしょう。自分が担任をしている子どもたちの状態を知るために教師たちも努力されておられることでしょう。でも、担任の子だから自分でその子のことを何でも背負ってしまうという事はどうなのでしょうか。

特に前述したような子どもがクラスにいる場合、教師がその子の対応にかかりっきりになってしまうと他の子どもたちの不満の基ともなります。だから、子どもを理解しようと努める愛を持っている教師たちのチームワークで乗り越えられたらどんなに素晴らしいでしょう。問題を一人で抱えないことなのです。一人で抱えると、教師自身も疲れて倒れてしまう危険があります。子どもには親がいるように、教会学校にも本当の親では無くとも、彼らの親の気持ちになってくれる教師が協力して子どもたちと接してあげましょう。また、状況によっては、牧師や牧師夫人ともよく連絡を取り合って、祈りと助けをいただくことも大切だと思います。

ディスカッション・ガイド

①自分が奉仕している教会学校にはどのような子どもたちが集っているのかを確認していますか。

②彼らはどのような背景を持っているのでしょうか。もし問題を起こしているような子どもがいるのなら、何が本当の問題であるのかを考えてみましょう。